INTERVIEW / 技術開発を支える

挑戦を支え、技術と現場をつなぐ。

NEDO AI・ロボット部
チーム長
細谷　克己



KEY MESSAGE

現場の課題を解決する技術が、一つでも多く生まれることを期待しています。

Q1 空港グラハンの課題を踏まえた本 Challenge の設計・重視点

空港グランドハンドリングの課題を踏まえ、本 Challenge の設計に当たって重視された点をお聞かせください。

空港グランドハンドリングは、人手不足が大きな課題になっている一方で、安全や定時運航も求められるため、簡単には自動化できない現場と思っています。

また、空港によって設備や運用方法も異なりますので、単に性能の高いロボットを作るだけではなく、実際に現場で使えるかどうかが重要と考えています。

本 Challenge では、技術力を競うだけでなく、実際に現場で使え、将来の実用化につながることを重視して設計しています。

Q2 開発フェーズにおける挑戦者への期待

スクリーニングを通過し、開発に取り組む挑戦者に対して、特に期待されていることをお聞かせください。

まずは自由な発想で挑戦していただくことを期待しています。

一方で、実際に空港で使われることを考えると、技術だけでなく運用面も重要になります。空港の現場にはさまざまな制約がありますので、現場が何を求めているのかを意識しながら開発を進めていただきたいと思います。

本 Challenge を通じて、航空会社や空港関係者とも対話しながら、実用化につなげられることを期待しています。



図 1　NEDO Challenge, Baggage-Loading Robot を推進する NEDO　ＡＩ・ロボット部の皆様

Q3 挑戦者とエアライン・空港等の現場をつなぐ取組

挑戦者とエアライン・空港等の現場をつなぐために、現在進めている取組や、検討されている取組をお聞かせください。

社会実装を進めるためには、良い技術を作る支援だけでなく、ユーザーとなる現場の方々と挑戦者である開発者の方々をつなぐことも大切な支援だと考えています。

これまで勉強会や個別相談会などを通じて、航空会社や空港関係者の皆様から現場の課題やニーズについて、直接お話しいただく機会を設けてきました。

今後も、開発者の皆様が現場をよく理解しながら開発できるような場づくりを進めていきたいと思っています。本 Challenge をきっかけに、空港グランドハンドリングの自動化が少しでも前に進むことを期待しています。

PROFILE
プロフィール

NEDO AI・ロボット部　チーム長

細谷　克己

2017 年 電機メーカー企業より NEDO に出向し、World Robot Summit の推進やロボットの研究開発事業に従事。2025 年 企業を退社後 NEDO に入構し、社会課題解決に向けた技術開発支援や産学官連携の推進に従事。現在は空港グランドハンドリング自動化に関する NEDO Challenge を通じ、技術開発から社会実装までを見据えたエコシステム形成を推進している。